

「2021年6月期 第2四半期業績」 「中長期戦略」について

2021年3月
Abalance株式会社
証券コード：3856（東証二部）

- ✓ Abalance 株式会社の、社長の光行です。
- ✓ 「2021 年 6 月期 第 2 四半期のグループ連結業績」 および「中長期戦略」について
ご説明申し上げます。

グループ連結決算(2021年6月期 第2四半期)概況



- ベトナムV S U N社の連結化を契機に新設した、太陽光パネル製造事業が、連結業績を牽引
- 事業構造 転換の過渡期(フロー型 ⇒ スtock型モデルへ)
 - 対前年同期比 ①売上高: **+278%の増収**、②経常利益: **+625%の増益**

	2020年6月期		2021年6月期		
	第20実績	第20実績	(前年同期比)	通期計画※	(進捗率)
売上高	3,060	11,573	+278%	23,500	49%
営業利益	212	845	+297%	1,110	76%
経常利益	121	881	+625%	1,080	81%
親会社株主に帰属する 当期純利益	55	348	+529%	430	80%

※2月15日における上方修正後の計画

- ✓まず実績ですが、「連結売上高」は前年同期比 278%増の 115 億 7 千万円、「営業利益」8 億 4 千万円、「経常利益」は前年同期比 625%増の 8 億 8 千万円と、大幅な増収増益になりました。
- ✓2 月 15 日に今期 2 回目の上方修正をした通期計画比では、「売上高」はほぼ進捗どおりの 49%、利益は 8 割程度の着地で、ベトナムV S U N社の連結化を契機に新設した太陽光パネル製造事業が、連結業績を牽引しました。

2021年6月期 通期連結業績予想を上方修正



ベトナムV S U N社の連結決算取込に伴い、当初想定を上回る売上高および営業利益を計上することとなった等から、通期業績予想を上方修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (EPS)
当初予想 (A)	20,000	700	560	311	60 円 21 銭
2月15日 修正予想 (B)	23,500	1,110	1,080	430	80 円 97 銭
増減額 (B-A)	3,500	410	520	119	—
増減率 (%)	+17%	+58%	+92%	+38%	—
【ご参考】前期実績 (2020年6月期)	6,678	361	305	211	40 円 91 銭

2

- ✓ 「2021 年 6 月期の通期連結業績予想」の上方修正について、補足します。
- ✓ 第 2 四半期連結会計期間において、ベトナムV S U N社を特定子会社化しましたが、連結決算取込にともなう同社決算監査の結果、当初想定を上回る「売上高」および「営業利益」を計上したことが背景です。
- ✓ この結果、売上高は期初予算の「60 億円」から、連結化公表後の第 1 回目の上方修正の「200 億円」を経て、更に今回の上方修正である「235 億円」へ、同じく営業利益も期初予算の「3 億円」から第 1 回目の修正で「7 億円」へ、そして今次 2 回目の上方修正で「11 億円」の着地を見込んでおります。
- ✓ V S U Nは、世界的な再生可能エネルギーの需要拡大により、急速な成長をあげており、連結業績を押し上げる原動力となっております。

VSUN (Vietnam Sunergy Joint Stock Company)

- 2016年ベトナムで設立、太陽光パネルの製造販売業、欧米向けの販売で急成長
 - ベトナムにおいて、IPOを視野に検討
 - 世界モジュールメーカーランキング16傑 (Bloomberg社集計から)
- 当社グループは、日系の最大の太陽光パネルメーカー**



VSUN は連結子会社を保有しておりますが、過年度の数値は会計監査未了にて、半体決算数値を記載しております

今後の目標値については、新たな中期経営計画などにおける開示を検討いたします

3

- ✓ 続きまして、ベトナム法人のVSUNについてご説明します。
- ✓ 2020年10月5日のプレスリリースで、グループの競争力強化を目的に、VSUNを特定子会社化する発表を行いました。
- ✓ VSUNは2016年の設立以来、モジュールメーカーとして太陽光パネルの製造販売業を営んでおり、欧米向けの販売で急成長してきた現地企業であり、ベトナムハノイの証券市場においてIPOも視野に入れています。
- ✓ VSUNは、世界におけるモジュールメーカーとして16番目の規模（生産能力2.6GW）まで拡大しており、当社グループは、日系の最大の太陽光パネルメーカーになったものと思われます。
- ✓ 引き続き、グローバルなサプライチェーン体制を確立するとともに、モジュールメーカーとして一層の競争力強化を図って参りますとともに、今後の新たな中期経営計画などにおける一層のディスクローズ拡充を検討いたします。

1. スtock型モデルへの転換
 - 太陽光発電所の販売(フロー)から自社保有(ストック)へ
 - 安定的に、売電収入を確保する
2. 海外事業の推進
 - VSUNの急成長
 - 「適切なリスク管理」に基づく投資判断
3. ヘルスケア関連事業
 - 衛生用品や抗菌・抗ウイルス製品を、「光触媒LIFE」を通じて
フランチャイズ加盟店や販売代理店による拡販を推進
4. 新規事業等
 - **自家消費型発電事業の推進**
 - 風力開発(陸上・小型)への取り組み
 - 蓄電池事業の推進

はじめよう、
抗菌生活。



積極的な「提携」も視野に、成長戦略に注力します

4

✓ 連結決算のポイントをご説明します。

✓ 引き続き、発電所の販売を中心としたフロービジネスから、中長期的な売電収入に基づく安定収益とキャッシュ・フロー確保のため、自社保有化により売電収益を得るストック型のビジネスモデルへ、舵を切っております。

✓ 2点目は、海外事業の推進です。

ベトナムを含むASEANや台湾、更にはグローバルな視点から合併や提携を積極的に進め、各国のグリーン成長戦略において「自家消費型発電事業の推進」などに積極的に取り組みます。

✓ 3点目は、当社グループのヘルスケア事業である日本光触媒センターの抗菌・抗ウイルス・抗臭製品の拡販を進めております。

光触媒の抗ウイルス効果は99.9%で、強い消臭効果もあり、成分の酸化チタンは無害で安全です。特に、効果の「持続性」に大きな特徴があり、学校、病院、インフラ、各種設備などにおける幅広い利用が想定され、「光触媒LIFE」を通じたフランチャイズ加盟店や販売代理店により拡販して参ります。

2020年12月に実施

- 普通株式 108,400株（新株発行）
- 調達資金額 224百万円（発行価額 2,068円／株）
- 背景
 - ①中長期的な売電収入に基づく安定収入とキャッシュフローの確保
 - ②V S U Nの急激な拡大
 - ③中長期投資案件への機動的な投資に備えるべく、自己資本を充実

- ✓ 第三者割当による新株発行で、2020年12月に224百万円を増資しました。
- ✓ 本件実施の背景として、①ストック型のビジネスにおける先行投資負担に対応すること、②ベトナムV S U N社の特定子会社化にともない、グループ資産規模が急激に拡大していく等、自己資本の充実が必要と判断したことによります。

当社グループ最大級の太陽光発電所が売電をスタート

初年度の年間売電収入は、約7.5億円

- 宮城県の「角田市太陽光発電所」
- 売電スタート 3月1日
- 年間発電量 一般家庭の約4,150世帯分の消費電力を想定
- FIT価格 36円
- 発電期間 20年間

ESGおよびSDGsへの取り組みを一層促進し、
グリーンエネルギー社会の到来に
積極的な貢献を果たすよう、
地域の電力供給に貢献してまいります



当社グループのSDGsに対する取り組みは、外務省運営Webサイト「JAPAN SDGs Action Platform」に、SDGsに取り組む企業の一例として掲載されています。



6

- ✓3月1日に、当社グループ最大級の太陽光発電所である、宮城県の「角田市太陽光発電所」が売電をスタートしました。
- ✓本件は、当社連結子会社であるWWB株式会社が匿名組合出資を通じ事業に参画し、プロジェクトファイナンスを組成のうえ推進してきたものです。
- ✓本発電所は、一般家庭の約4,150世帯分の消費電力に相当する出力を想定しています。
- ✓また、年間の売電収入は、7億5千万円を予定しております。
- ✓当社グループが推進しているESG、SDGsへの取り組みを一層促進し、グリーンエネルギー社会の到来に積極的な役割を果たすよう、地域の電力供給に貢献して参ります。
- ✓なお、その一環として、当社グループの株式会社バローズは、徳島大正銀行様を引受先とするSDGs私募債1億円を2月に発行しましたが、発行金額の一部が学校や地方公共団体等へ物品または金銭として寄贈されるもので、これは、SDGsへの支援のみならず新型コロナウイルス対応の側面も持っております。

2月26日に、当社連結子会社の(株)バローズが買収

- 取得価額 281百万円
- 取得株式 100%
- 概要 BLESSの買収を通じて、神戸市西区所在の太陽光発電所の権利を取得
- 年間発電量 一般家庭の約510世帯分の消費電力を想定
- F I T 価格 27円
- 発電期間 約20年間

引き続き、M & A も視野に「企業価値の増大」を推進します

✓次は、M & A の実施についてです。

✓2月26日に、当社の連結子会社である株式会社バローズが、太陽光等を利用した発電所を営む株式会社BLESSを買収したことをリリースしました。

✓M & Aは「スピード感を持って成長できる重要な施策」と位置づけ、引き続き積極的に検討を進めて参ります。



「パリ協定」や「2050年カーボンニュートラル」といった内外の追い風の環境下
『投資家と企業の対話ガイドライン(金融庁)』や『資本市場のサーベイ』などを踏まえた
新たな中期経営計画の策定を検討しています

*生命保険協会様：『生命保険会社の資産運用を通じた「株式市場の活性化」と「持続可能な社会の実現」に向けた取組について』 など

8

- ✓ 中長期の方針については、今期を含めまして、グループ連結業績は飛躍の時を迎えておりますが、今後の更なる成長を企図しまして、「発電所の自社保有」をはじめとする重要施策を着実に進めて参ります。
- ✓ 政府が「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を目指すことを宣言するなど、国内外におけるグリーン成長戦略の動きが加速しております。
- ✓ 当社事業のベースにはこれらのESG、SDGsがあり、今後も大きな成長が見込める市場環境と考えており、追い風のマクロ環境のなか、「再生エネルギーのグローバル企業」に向けて、更に企業価値の増大に努めて参ります。
- ✓ その中で、金融庁のガイドラインなどを参考にしつつ、今後の中期経営計画などにおいて、成長戦略に向けた体制整備を引き続き拡充していく方針です。

- 基本方針：安定配当は継続
「利益還元」と「成長資金確保のための内部留保」のバランスを考慮
- 2021年6月期(中間)：7円、期末未定

【配当実績】

	親会社株主に 帰属する 当期純利益	中間 配当	期末 配当	配当計	配当性向 (連結)
2020年6月期	211百万円	7円	10円	17円	41.6%
2019年6月期	316百万円	7円	10円	17円	27.8%
2018年6月期	756百万円	7円	10円	17円	11.7%

- ✓株主還元については、従前と変わらず安定配当を行う方針であり、
中間配当は7円、期末配当は現在のところ未定としておりますが、
「利益還元」と「成長資金確保のための内部留保」のバランスを考慮のうえ、
適切な資本政策を進めて参ります。

当社グループにて開発中の発電所やその他事業に大きな支障はなく、
当社連結業績に重大な支障は生じていない状況

- ✓最後に、新型コロナウイルス感染症、および福島県沖地震の影響については、
当社グループにて開発中の発電所やその他事業に大きな支障はなく、
当社連結業績に重大な支障は生じていない状況です。

免責事項

本資料は、Abalance株式会社の現状をご理解いただくために、当社が作成したものです。これに含まれる情報は当社の知見および当社が本資料を作成した時点で入手可能な情報等から引用したものであり、その正確性を保証するものではありません。今後、新たな情報や事象の発生等があった場合にも、当社は、本資料を更新する義務を負うものではありません。



- ✓以上、当社の第二四半期決算の業績、および中長期戦略についてご説明申し上げました。
- ✓今後もよろしくご支援を賜われれば幸いです。
ご清聴、ありがとうございました。